

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495300139		
法人名	テルウェル東日本(株)		
事業所名	グループホームひなたぼっこ 1F		
所在地	仙台市若林区五十人町77-2		
自己評価作成日	令和 3 年 10 月 20 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/宮城県仙台市指定情報公表センター">http://www.kai gokensaku.jp/宮城県仙台市指定情報公表センター</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 3 年 11 月 10 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員と17名の利用者がのんびりと生活しています。個々の個性を大切にしながら、「楽しく元気にありがとう」がモットーに日々楽しんでる姿がみられます。地域との繋がりもパイプが太く行事にも参加の行き来をしています。食事や近所の主婦の方がパートで働いてくれています。ボランティアの方2名も日常生活の楽しみや環境整備にとよたすけていただいています。医療面も訪問診療があり、正看護師が常勤勤務で緊急時は24時間体制でささえられています。過ごしやすい環境の中、喜怒哀楽のメリハリもあり家族の協力、地域、職員利用者との日々の生活を楽しくしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは地下鉄河原町駅から徒歩10分の住宅地にあり、回廊で中庭を囲んだ2階建てとなっている。入居者は全員町内会に入会して地域の一員となっている。町内会長や民生委員の来訪や地域のボランティアの支援がある。町内会の連絡網があり災害時の応援体制が整備されている。職員は笑顔をもっととして入居者を一番に考え、ケアに当たっている。コロナ禍で外出などは自粛しているが、入居者は毎月のレクリエーションや花の水やり・鑑賞を楽しみ、洗濯や掃除、食事の盛り付け、片付け等、できることは何でも行っている。笑顔で穏やかに、日々の生活を送っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 ひなたぼっこ )「ユニット名 1F 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を見やすいように張り職員が実践しやすいように工夫をしている。	開設時の基本理念や運営理念「自分らしくいきいきできる生活」等を掲げている。毎月のミーティングで振り返り、目標を立てている。職員が笑顔でいること、入居者の思いを一番におき、日々のケアに当たっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で制限や交流が制限される中地域との数少ない機会を利用しつながりが無くなるようにしている。月1回の資源回収など。	入居者全員が町内会に加入している。町内会長が毎月市政だよりを持ってきたり、民生委員の声がけがある。毎週来て一緒に洗濯をしてくれる近所の人や毎月掃除や障子貼り等してくれるボランティアがいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム側の情報を許される限りの中で積極的に発信している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ渦の中集合しての会議は中止になっているが情報提供は報告書とゆう形で行っている。	今年の5月から奇数月に入居状況や行事、活動内容を文書でメンバーや全家族に届けて書面会議としている。家族からの面会の希望に、相談室に透明のパーティションを設置して対応している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	研修や介護情報等において連携をとっている。	区の在宅ケア会議に出席し、地域のケアの問題や相談を行っている。市から精神的病気の方の入居の問合せや生活保護で身寄りのない方について相談を受けた。県と市から消毒薬や抗原検査キットの配布があった。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を実施してより具体的な事例について話し合い理解を深めている。利用者が外出する時には一緒に付き添い支援を行っている。	2か月に1回身体拘束チェックリストで振り返っている。身体拘束廃止委員会では、事例検討して職員に伝えている。夜中に近所の自宅に外出する入居者には、抑制しないで付き添っている。転倒予防としてベッド下にセンサーを置くなど話し合っている。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待委員会を設け定期的に管理者と職員で研修会を実施している。働く側のストレスチェックリストを活用し虐待予防に役立てている。	市の虐待防止の資料等を利用して職員研修を行っている。ユニットリーダーや管理者と話し合う機会を持ち、職員のストレスチェックリストの活用や休憩時間を取るなど、ストレスを溜めない環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する外部研修に参加し職場での研修会をおこなっている。後見人制度が必要なばめんで役立てられるよう努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	締結、解約についてもお互いの意見、考え等に関しても聞き取りを怠らず円満に進めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等から面談を希望すると時にはすぐに対応話し合いを持つようにしている。情報も提供している。	毎月1回電話で家族と話し合っている。入居継続出来るのか、何か必要なものがないかなどがあり、応えている。入居者から餃子やカップラーメンが食べたい、読みたい新聞、本等の要望に応えている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員面談を持ち意見交換、等を行っている。	職員アンケートや法人のセンター長と年2回の個人面談がある。要望のあった給料の改善や休憩所のストーブ、ソファが設置された。資格取得や研修費用は全額法人が負担し、夏季やリフレッシュ、創立の休暇がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の生活環境や職場環境を踏まえながら勤務状況労働条件を把握し日々ケアに取り組めるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修、ホーム内での研修又は外部研修は参加費を負担し職員が希望する研修に参加している。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は機会があればさんかします。ことあることに電話やメールの交換をしています。	法人の研修で地域包括等と交流がある。専門学校の情報を得て職員の求人活動に活かしている。夜眠れない入居者の事例を上げて相談し、助言をもらい反映させた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思いや訴えに耳を傾け不安を軽減・安心感につながる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いや不安等、面談時の情報収集でしっかり伺い共に考え要望があれば対応し、信頼関係を築いていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談や連絡を取り合う中で現状の把握に努めている。その上で必要なサービスについても情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯などの家事をスタッフと共に行い生活し支え合う同士としての関係づくりに努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会は制限しているが、入居者の日々の様子や状態の変化等を報告し情報を共有している。共に本人を支えていく関係づくりに努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	顔なじみのボランティアさんと交流し刺激を受けている。コロナ禍で面会も難しいが、要望があれば電話や手紙を出し関係が途切れないように支援していきたい。	開設以来の馴染みの理容師が毎月来訪している。家族との電話を職員が繋いでいる。定期的に来訪するボランティアと洗濯や掃除等一緒に行い、馴染みの関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を配慮した席替えを行い入居者相互の関係を築いている。難しい部分のある方も孤立しないようスタッフが間に入り交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もその後の経過を伺い、相談や支援が出来るように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	色々な場面で、傾聴に重きを置き一人ひとりの思いを汲み取れる様にしている。自分で知り得た情報はスタッフ間で共有しケアに生かしている。困難だと思われる事も本人を一番に考え思いに寄り添えるよう努めている。	居室や食堂兼談話室で、職員はゆったり入居者と話をする。亡き息子の帰宅を心配し、家に帰りたい思いに応えている。夜眠れない入居者の気持ちに合わせ、掃除等を一緒に行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、実調書類、健康診断等の書類を読み込み、又入居されてからは本人から馴染みの暮らし方など会話の中からも把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックから始まり、顔色、足の運びの状態、食欲など心身の状態を確認し現状にあったお手伝いや運動、レクレーションを提供している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々変化する日常の様子について言動や仕草、表情を観察し、状態にあった課題を抽出している。ご家族から希望を伺い、状態に変化があればその都度プランを変更している。	居室担当者と話し合い、入居者の状況に合わせて3ヵ月、6ヵ月、1年で見直しをしている。できるだけ歩かせてほしいとの家族の要望に、主治医と相談し、手引き歩行で回廊を歩く支援をプランに盛り込んだ。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を通して新たな気づきや工夫が生まれるように努めている。一番大切なのはスタッフ間の情報共有と思われるので記録を基に話し合いを行っている。毎月のミーティングやケアプランの見直しに活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況を把握し、希望やニーズに沿った支援が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	全員が町内会の会員となっている。地域の皆様との交流のために毎年お祭りの参加も楽しみとなっている。(今年度はコロナで中止)地域の方々には消防訓練の参加や推進会議への参加をお願いしコミュニケーションを図っている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望に応じたかかりつけ医となっている。入居前からのかかりつけ医に受診される方もあり受診は基本的、家族対応。連絡体制は看護師が中心となり適切な医療が受けられるようしえんしている。月2回の訪問診療を受けており24時間緊急体制が確保できている。	かかりつけ医利用は5名で、受診時は家族が同行している。他は全員訪問診療を利用している。看護師がバイタルチェックや口腔ケア等を行い緊急時は主治医と相談して対応している。全員訪問歯科を利用している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活、入浴時などに於いて入居者様の様子変化などを看護師に伝えている。状態観察し、かかりつけ医、Drに指示を仰ぎ必要に応じて専門診療科の受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にサマリーを提出し情報提供を行っている。入院中は病院関係者と情報交換を行い退院後の支援ができるよう努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族からの要望において看取りケアを行っています主治医、家族、ホームとで十分な話し合いを重ね職員研修、カンファレンスを行い情報交換を綿密に行いながら実施している。	重度化した時に主治医から家族に説明し、方針を決めている。看取りは、医師の指示のもと看護職員と病院の看護師が連携しケアに当たった。家族は感染防護対策をして付き添い、職員全員で看送った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故に対するマニュアルを作成しており、発生時直ぐ対応できる様職員に周知徹底している。応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い実践できるよう職員各々意識の向上を図っている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。日中想定、夜間職員がひとりの場合などを想定している。地域の応援もお願いするなど、協力体制をスプリンクラー、避難用担架、非常用食料備蓄品も整えている。	年2回、夜間と昼間想定の実践を行っている。2階から車いすの方の避難は、非常階段を手引きや背負いで行った。地域の住民が訓練に参加し見守りをした。町内会の地域連絡網があり応援体制が整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様ひとりひとりの個性や性格などを把握し人格を尊重したケアを実践する。誇りやプライバシーを損ねないように配慮した態度や声掛けを行う。	呼び名は苗字か名前にさん付けしている。言葉はゆっくり「御飯ですよ」「お風呂ですよ」など分かりやすく話しかけている。失敗時は周りに気づかれないよう小声でトイレに誘導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話し易い環境や希望を言える雰囲気を作る。日常会話の中で情報を得たこと、例えば好物など自己決定を促すような働きかけや会話を弾ませるよう配慮などしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの生活スペースが心地良いものである様なるべく意に添える支援をする。コロナで外出が制限されていることで淋しい思いもあるが工夫して日々好きな様に暮らせるように支援して行きたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えをご自身でできる方はご自分で決めて、支援が必要な場合は職員が手伝っている。2～3ヶ月に1度、訪問で髪のカット実施。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	声掛けによる、盛り付け、洗い物、片付けをお手伝いして頂いている。	調理専従職員が入居者の食べたいもの等を聞いて提供している。煮物や天ぷら、鍋等のリクエストが多い。食材は近所の商店に届けられている。誕生日会や行事食のオムライスや山形風芋煮は好評だった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各ご利用者様の状態に合わせた食事の提供。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け、介助にて口腔ケアの実施。必要時は訪問歯科の受診の対応。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一定のリズムで排泄出来るようトイレの誘導を行っている。自尊心を傷つけないよう下着交換の声掛け。	リハビリパンツか布パンツで過ごし、車いす以外の方は自分でトイレを利用している。食事の前や3時間毎に声がけしている。夜間にセンサー利用の方が1人いるが、他の方は安眠を妨げないよう見守りをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時にヨーグルトを提供し、10時の飲水には牛乳を使用している。食材は食物繊維を多く含む野菜を取り入れるよう心掛けている。個々に排便状況を記録し便秘の予防と対応に努めている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴は少なくとも週2回、希望を聞きながら日中の時間帯に支援している。個別に頭皮の状態に応じたシャンプーを使用したり入浴を洗入居者様には声掛けを工夫している。支援の必要な時にはスタッフ2名で対応し危険防止に気を配っている。	週3回の入浴を基本にしているが希望でいつでも入浴できる。シャンプーは個別に用意している。拒否する方に、様子を確認して「散歩に行きましょう」と誘っている。安全確保のため複数で介助する方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の好きな時間に休んで頂いている。その中で適度に声掛けし、夜間安眠出来るように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容をファイルし職員が常時薬の内容の把握と確認が出来るようにしている。与薬時には声に出し読み上げ再確認するようにしている。処方に変更があったときには連絡ノートに記入し状態の変化を観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の様子からお一人お一人の楽しみや力に合わせた役割をして頂いている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ禍で、相等の部分自粛状態です。その日の天候、ご利用者様の体調を考慮し、グループホームの辺り、庭等の散歩をして気分転換を図っている。	コロナ禍で外出は自粛している。玄関前の庭やプランターに季節の花を一緒に植え、水やりや鑑賞を楽しんだ。受診の際に、家族と墓参りやドライブする方もいる。外出に代えて、毎月レクリエーション係が劇や歌、踊りを企画し一緒に楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の出来る方は、ご自分で管理されています。買い物支援等はコロナ禍の自粛しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご依頼があったときには職員が電話や手紙を取り継いでいつでもやりとりが出来るよう支援している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じる事が出来るような飾り付けを利用者と共に作成し各々の居室や談話室に飾っている。季節に咲く花も植え水やりを楽しんでいる。	食堂兼談話室は定期的に換気を行い、エアコンや空気清浄機、加湿器等で調整し、過ごしやすいようにしている。壁に折り紙の落ち葉を飾り季節感を出している。皆での体操や新聞を読んだり話をする等自由に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室、廊下と椅子を配置して、気の合ったご利用者様同士が談笑されたり、又居室ではお一人で過ごされたりと、その時々のお思いの居場所づくりを工夫している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく使い慣れた生活用品を持ち込んでいただいて、家での生活に近い環境で居心地良く過ごせるように配慮している。	テレビやエアコン、クローゼット、洗面台を設置している。使い慣れた机や筆筒、イス、本棚等を持ち込んでいる。仏壇や位牌、遺影を置いている方もいる。テレビを見たり新聞、本を読みCDを聴くなど寛いでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様それぞれの『できること』『わかること』を把握して無理せずお声掛けをして、自立した生活が送れるように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495300139		
法人名	テルウェル東日本(株)		
事業所名	グループホームひなたぼっこ 2F		
所在地	仙台市若林区五十人町77-2		
自己評価作成日	令和 3 年 10 月 20 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/宮城県仙台市指定情報公表センター">http://www.kai gokensaku.jp/宮城県仙台市指定情報公表センター</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 3 年 11 月 10 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員と17名の利用者がのんびりと生活しています。個々の個性を大切にしながら、「楽しく元気にありがとう」がモットーに日々楽しんでる姿がみられます。地域との繋がりもパイプが太く行事にも参加の行き来をしています。食事も近所の主婦の方がパートで働いてくれています。ボランティアの方2名も日常生活の楽しみや環境整備にとよたすけていただいています。医療面も訪問診療があり、正看護師が常勤勤務で緊急時は24時間体制でささえられています。過ごしやすい環境の中、喜怒哀楽のメリハリもあり家族の協力、地域、職員利用者と日々の生活を楽しくしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは地下鉄河原町駅から徒歩10分の住宅地にあり、回廊で中庭を囲んだ2階建てとなっている。入居者は全員町内会に入会して地域の一員となっている。町内会長や民生委員の来訪や地域のボランティアの支援がある。町内会の連絡網があり災害時の応援体制が整備されている。職員は笑顔をもっととして入居者を一番に考え、ケアに当たっている。コロナ禍で外出などは自粛しているが、入居者は毎月のレクリエーションや花の水やり・鑑賞を楽しみ、洗濯や掃除、食事の盛り付け、片付け等、できることは何でも行っている。笑顔で穏やかに、日々の生活を送っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 ひなたぼっこ )「ユニット名 2F 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を見やすいように張り職員が実践しやすいように工夫をしている。	開設時の基本理念や運営理念「自分らしくいきいきできる生活」等を掲げている。毎月のミーティングで振り返り、目標を立てている。職員が笑顔でいること、入居者の思いを一番におき、日々のケアに当たっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で制限や交流が制限される中地域との数少ない機会を利用しつながりが無くなるようにしている。月1回の資源回収など。	入居者全員が町内会に加入している。町内会長が毎月市政だよりを持ってきたり、民生委員の声がけがある。毎週来て一緒に洗濯をしてくれる近所の人や毎月掃除や障子貼り等してくれるボランティアがいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム側の情報を許される限りの中で積極的に発信している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ渦の中集合しての会議は中止になっているが情報提供は報告書とゆう形で行っている。	今年の5月から奇数月に入居状況や行事、活動内容を文書でメンバーや全家族に届けて書面会議としている。家族からの面会の希望に、相談室に透明のパーティションを設置して対応している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	研修や介護情報等において連携をとっている。	区の在宅ケア会議に出席し、地域のケアの問題や相談を行っている。市から精神的病気の方の入居の問合せや生活保護で身寄りのない方について相談を受けた。県と市から消毒薬や抗原検査キットの配布があった。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を実施してより具体的な事例について話し合い理解を深めている。利用者が外出する時には一緒に付き添い支援を行っている。	2カ月に1回身体拘束チェックリストで振り返っている。身体拘束廃止委員会では、事例検討して職員に伝えている。夜中に近所の自宅に外出する入居者には、抑制しないで付き添っている。転倒予防としてベッド下にセンサーを置くなど話し合っている。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待委員会を設け定期的に管理者と職員で研修会を実施している。働く側のストレスチェックリストを活用し虐待予防に役立てている。	市の虐待防止の資料等を利用して職員研修を行っている。ユニットリーダーや管理者と話し合う機会を持ち、職員のストレスチェックリストの活用や休憩時間を取るなど、ストレスを溜めない環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する外部研修に参加し職場での研修会をおこなっている。後見人制度が必要なばめんで役立てられるよう努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	締結、解約についてもお互いの意見、考え等に関しても聞き取りを怠らず円満に進めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等から面談を希望すると時にはすぐに対応話し合いを持つようにしている。情報も提供している。	毎月1回電話で家族と話し合っている。入居継続出来るのか、何か必要なものがないかなどがあり、応えている。入居者から餃子やカップラーメンが食べたい、読みたい新聞、本等の要望に応えている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員面談を持ち意見交換、等を行っている。	職員アンケートや法人のセンター長と年2回の個人面談がある。要望のあった給料の改善や休憩所のストーブ、ソファが設置された。資格取得や研修費用は全額法人が負担し、夏季やリフレッシュ、創立の休暇がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の生活環境や職場環境を踏まえながら勤務状況労働条件を把握し日々ケアに取り組めるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修、ホーム内での研修又は外部研修は参加費を負担し職員が希望する研修に参加している。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は機会があればさんかします。ことあることに電話やメールの交換をしています。	法人の研修で地域包括等と交流がある。専門学校の情報を得て職員の求人活動に活かしている。夜眠れない入居者の事例を上げて相談し、助言をもらい反映させた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思いや訴えに耳を傾け不安を軽減・安心感につながる関係作りに努力しながらご本人の思いをくみ取るように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いや不安等、面談時の情報収集でしっかり伺い傾聴し共に考え要望があれば対応し、信頼関係を築いていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談や連絡を取り合う中で現状の把握に努めている。その上で必要なサービスについても情報を提供しながら状態に合わせたサービスを提供できるように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員がすべての事に手を差し伸べるのではなく本人の意向や様子を見ながら関係を気づいている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事あることに電話等で話し合いながら、変化があった時などは必ず連絡を取り職員間での情報共有も大切に本人、家族、職員とで支える体制作りに心がけている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の一年で行動制限もある中本人の要望で自宅が見たいなどの要望に応えながら馴染みの人、地域にドライブ形式で答えながらなじみ深い事柄に答えている。	開設以来の馴染みの理容師が毎月来訪している。家族との電話を職員が繋いでいる。定期的に来訪するボランティアと洗濯や掃除等一緒に行い、馴染みの関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の問題もあり苦慮することも多々あるが職員が介入したりすることで利用者同士の関係も気づくことが可能になり、必要に応じて支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もその後の経過を伺い、相談や支援が出来るように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で本人の思いや、意向を聞き取り傾聴し個々の暮らし方を共に考える体制を作り支援に努めている。	居室や食堂兼談話室で、職員はゆったり入居者と話をする。亡き息子の帰宅を心配し、家に帰りたい思いに応えている。夜眠れない入居者の気持ちに合わせ、掃除等を一緒に行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時生活歴や暮らし方等を家族等から聞き取りその情報をもとに支援している。情報を追加していきながらその人らしい生活ができるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化する利用者の状態に合わせてながら心身の様子や生活する上での力を把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良い暮らし方を根拠に基づきながらほんにん、家族、職員と話し合いを重ね介護計画作成に役立てながら作成している。	居室担当者と話し合い、入居者の状況に合わせて3ヵ月、6ヵ月、1年で見直しをしている。できるだけ歩かせてほしいとの家族の要望に、主治医と相談し、手引き歩行で回廊を歩く支援をプランに盛り込んだ。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活を個別記録に残し気づきや改善点を職員間で共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族とともにプランを検討する機会を作りながら柔軟に対応できるように取り組む努力を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、民生委員の協力のもと安全かつ豊かな資源を利用できる体制を作る努力をかさねている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医となっている。受診は基本的に家族対応となっているが状況に応じて職員が同行することもある。又週2回の訪問診療を行っており24時間緊急対応が確保されている。	かかりつけ医利用は5名で、受診時は家族が同行している。他は全員訪問診療を利用している。看護師がバイタルチェックや口腔ケア等を行い緊急時は主治医と相談して対応している。全員訪問歯科を利用している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に連絡できる環境にあり24時間連絡相談指示をもらえる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に際してサマリーを提出し情報提供を行っている。入院期間中は病院関係者と情報交換を行い退院に向けて病院で無期病院に話し合いに参加し退院後も適切な支援ができるよう努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向添える範囲で主治医と職員とで話し合いその結果を再度家族と話し合い情報の共有を綿密に重ね最善を尽きすよう職員の研修を重ね行っている。	重度化した時に主治医から家族に説明し、方針を決めている。看取りは、医師の指示のもと看護職員と病院の看護師が連携しケアに当たった。家族は感染防護対策をして付き添い、職員全員で看送った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止マニュアルを作成しているが実践的な訓練をしてはいない。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練を実施している。マニュアルも作成し職員全員で避難させることを身に付け努力しているが、地震、水害については実施されていない。町内会の参加も毎回していただいている。	年2回、夜間と昼間想定の実践を行っている。2階から車いすの方の避難は、非常階段を手引きや背負いで行った。地域の住民が訓練に参加し見守りをした。町内会の地域連絡網があり応援体制が整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活状態から尊厳とプライバシーについてはまもられています。排泄、食事等自由時間の確保において個々に配慮している。	呼び名は苗字か名前にさん付けしている。言葉はゆっくり「御飯ですよ」「お風呂ですよ」など分かりやすく話しかけている。失敗時は周りに気づかれないよう小声でトイレに誘導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を大切に認知が進んでいる方も傾聴し本人の意思を尊重出来るよう声掛けやケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	得意、不得意、好き嫌いを把握し、身体的特徴認知度に合わせ工夫をしている。一日の時間の中で昼夜逆転にならないように働きかけや声かけを行い生活を大切に希望に沿ったケアの実践を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員と話し合う方もいますが基本的には季節に応じた身だしなみが苦手な方が多くさりげない支援を行っている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理専門の職員で調理や献立をつくっている。季節に特化した献立や希望食等、行事食等もだしている。簡単に盛り付けを考え手伝ってもらい、後片付けもできるよう支援している。	調理専従職員が入居者の食べたいもの等を聞いて提供している。煮物や天ぷら、鍋等のリクエストが多い。食材は近所の商店に届けられている。誕生日会や行事食のオムライスや山形風芋煮は好評だった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	看護師のアドバイスのもと個々にあった形態、栄養バランスを考え摂取量の記録を行い状態観察を行い情報共有に努めケアにいかしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	居室において、食事の後の口腔ケアを行っている。基本、義歯は就寝前にスタッフ預かりで洗浄液につけることをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの迷い、汚染の状況を共有したうえで尿意の有無、汚染の確認を時間を見ながら声掛けをし自立できるようしえんしている。	リハビリパンツか布パンツで過ごし、車いす以外の方は自分でトイレを利用している。食事の前や3時間毎に声がけしている。夜間にセンサー利用の方が1人いるが、他の方は安眠を妨げないよう見守りをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師の指導の下、薬の調整食事の調整など食品などでもよぼうを試みている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	個々にあった声掛け、時間等、環境づくりを行い入浴剤等の利用など希望も取り入れ一人一人が楽しく清潔保持が保てるよう支援している。	週3回の入浴を基本にしているが希望でいつでも入浴できる。シャンプーは個別に用意している。拒否する方に、様子を確認して「散歩に行きましょう」等と誘っている。安全確保のため複数で介助する方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体状況を鑑みて個々にあった休息、安眠を提供できるよう環境整備を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心に全職員がここに使用している薬の目的や副作用用法、用量について把握し服用する時には職員どうしで確認、名前日付等を読み上げ、一日分の袋を補完し、確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の状態に合わせて洗濯たみ食器ふき、居室の掃除等声掛け又塗り絵、漢字、計算ドリルDVD鑑賞、歌を歌ったりたのしんでいます。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため以前のように外出できていませんが感染対策を徹底し個別に対応したりお花見七夕をドライブ形式で出掛けるています。	コロナ禍で外出は自粛している。玄関前の庭やプランターに季節の花と一緒に植え、水やりや鑑賞を楽しんだ。受診の際に、家族と墓参りやドライブする方もいる。外出に代えて、毎月レクリエーション係が劇や歌、踊りを企画し一緒に楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は基本事務所管理。安心の為小銭を所持している方もいる。現在、コロナ禍で買い物もいけない状態ですが、買い物支援はおこなう。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が休日や仕事が終わった後には電話をかけてくる方も多くいます。手紙を書くことは現段階では難しくなっているため名前や簡単な言葉を書いて頂き郵送している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った装飾品や入居者と一緒に作成した作品を飾り季節感が出るように工夫している。温度、湿度にも注意し入居者の要望も取り入れながら過ごししやすい空間づくりに努めている。	食堂兼談話室は定期的に換気を行い、エアコンや空気清浄機、加湿器等で調整し、過ごしやすいようにしている。壁に折り紙の落ち葉を飾り季節感を出している。皆での体操や新聞を読んだり話をする等自由に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとり又は気の合った人と一緒に過ごせるようにソファを置き談笑したり読書作品作りをするなど思い思いの時間を過ごせるよう工夫している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の状況を見ながら危険を回避できるような空間を作り馴染みの物や使い勝手の良いものを置き本人が居心地よく過ごせるよう工夫はたらきかけに努めている。	テレビやエアコン、クローゼット、洗面台を設置している。使い慣れた机や筆筒、イス、本棚等を持ち込んでいる。仏壇や位牌、遺影を置いている方もいる。テレビを見たり新聞、本を読みCDを聴くなど寛いでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は利用者が認知し安陽に個々の表札を付けたリトイレ、談話室の名称を明確に見やすく表示している。クローゼット内は洋服等の場所をわかりやすく自分で使いやすく自立した生活に役立っている。		